

年頭の辞

新年のご挨拶

一般社団法人軽金属学会

会長 山内重徳

新年明けましておめでとうございます。本年も会員の皆様のますますのご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

昨年後半は、国内総生産でマイナス成長となり、海外経済の減速で輸出が細り、エコカー補助金の終了で内需も弱まり、景気がすでに後退局面に入ったものと考えられています。マイナス成長の主因となったのは外需の落込みで、特に電機電子産業の需要低迷が大きく、輸出は米国や欧州、アジアと主要地域向けがすべて減少しました。こうした中で、日本の素材は世界の産業や生活を大きく変えようとしています。CFRP に代表されるような革新的な素材だけでなく、従来の基盤材料である鉄鋼やアルミニウムにおいても、ユーザーニーズをとらえ、ユーザーと一緒に開発してきた材料は世界でも十分通用するものと思います。これらを武器に日本の素材をグローバル展開し、日本の産業を活性化していくことが求められていると考えます。

さて、昨年を振り返って本年なすべきことを申し上げたいと思います。第一に春秋の講演大会です。昨年は、学会の大きな事業の一つである春秋の講演大会では、第 122 回春期大会が平成 24 年 5 月 19、20 日九州大学伊都キャンパスにて開催され、155 件の口頭発表と 43 件のポスター発表がありました。また第 123 回秋期大会は平成 24 年 11 月 10、11 日千葉工業大学津田沼キャンパスにて開催され、159 件の口頭発表と 44 件のポスター発表がありました。若い研究者や学生・院生の発表が多く、この件数を維持・拡大しつつ、ここから将来の軽金属を担ってくれる人材が育ってくれることを期待するものであります。なお、大会は参加者数も多く、財政的には大会実行委員会、大会運営委員会の努力も実って黒字を継続しております。

第二に国際交流です。秋の講演大会に先立って、国際交流活動の一環として軽金属に関する Asian Forum on Light Metals, AFLM2012 が千葉工業大学で開催されました。これはアジア地域（日本、中国、韓国、台湾、オーストラリア）の軽金属に関する産業と学術の相互交流を深め加盟地域内の発展に資する交流の場で、日本、中国、韓国、台湾、オーストラリアの各地域から推薦いただいた講師の方々より、アルミニウム、マグネシウム、チタンの学術・技術に関する動向や最近のトピックスについてご講演いただきました。今後も軽金属学会を中心にこのような活動を継続していくこととなり、次回は 2 年後東京工業大学で開催される予定です。経済発展するアジアの動向は重要で実のある情報交換を継続していきたいと考えます。なお、本年は中国北京で第一回 Asian Conference on

Aluminum Alloys (ACAA-2013)が開催されます。アジア地域を中心とした国際会議で ICAA (International Conference on Aluminium Alloys) を補完する形で開催されます。

第三に、学会誌です。学会誌は順調に発行されていますが、投稿論文数の減少が気になります。数年前は毎月 5～6 編が普通でしたが、最近は 3～4 編です。学会誌としてのレベルは維持しつつ、多く投稿していただけるよう、学会としても検討していきたいと考えます。また現場の技術者にも役に立つ記事を掲載していくことが維持会員の増大にも繋がるものと思いますので、掲載記事の内容についてもさらに検討していきたいと考えます。

第四は、維持会員の拡大であります。平成 23 年 4 月の 157 口数から 169 口数まで拡大していますが、目標の 200 口まではまだまだです。学会の維持発展に必要なのは、その健全な財政基盤です。組織のスリム化、経費の削減に取り組むと共に、特に維持会員の増加が必要です。維持会員の拡大では支部活動と結びつけて活動していくことが必要です。地域に根ざした活動にその地域に属する企業が参加して、その必要性を認識して、維持会員に加わっていただくことが重要です。また、軽金属学会を魅力あるものにすることが重要です。これらの課題に先頭に立って取り組んでいく所存でございますので、会員の皆様の積極的なご協力、ご支援をお願い申し上げます。